

# デザイン・クロニクル展

なにが生まれて、なにが変わった？

A Design Chronicle: What Was Created? What Changed?

10月9日(金)～1月11日(月・祝)



会 期：2026年10月9日(金)～2027年1月11日(月・祝)

会期中一部展示替えあり

[前期：2026年10月9日(金)～11月23日(月・祝) 後期：2026年11月25日(水)～2027年1月11日(月・祝)]

開館時間：午前9時30分～午後5時30分（入館は閉館の30分前まで）

休 館 日：月曜日（ただし10月12日、11月23日、1月11日は開館）、10月13日（火）、11月24日（火）、  
年末年始（12月29日～1月1日）

観 覧 料：一般 1,200円（1,100円）／大学生 800円（700円）／高校生以下および18歳未満無料

\*（ ）内は20名以上の団体料金および割引料金。

\* いずれも消費税込。

\* 障害者手帳をお持ちの方と付添者（1名）は無料。

\* MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバーパートナーは本人のみ)、キャンパスメンバーズは無料。

\* 外国人を引率し通訳案内のために同行する通訳案内士は無料。

\* 文化の森おでかけパスをお持ちの方は割引料金。

\* 石川県立美術館、金沢21世紀美術館、石川県立歴史博物館、石川県立伝統産業工芸館(いしかわ生活工芸ミュージアム)、  
金沢市立中村記念美術館の主催展覧会入場券半券を窓口で提示した方は割引料金。

\* 北陸鉄道株式会社(北陸鉄道バス)「金沢市内1日フリー乗車券」のご提示で乗車日当日に限り割引料金。

\* いしかわ文化の日(10/18)は割引料金。

\* オンラインによる事前予約あり。

主 催：国立工芸館

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600（ハローダイヤル）

# ドレッサー、ミュシャからブロイヤー、イームズまで 工芸からモダン・デザインへとつづく100年の歩みを紹介

## 展覧会概要

19世紀の急速な工業化は新しい素材や機械による大量生産をもたらしました。それまで職人が手仕事で制作していた物品を新しい素材や生産方式でつくるためには、抜本的な転換が求められました。工芸家たちは試行錯誤を繰り返し、やがて今日「デザイン」と呼ぶものが確立してゆきます。このように、デザインとは近代化によって生じた様々な課題に対応するために工芸から派生した新しいものづくりの考え方です。それはヨーロッパで生まれ、世界中へと広がってゆきました。

本展では当館のデザインコレクションを中心に紹介し、19世紀後半のアーツ&クラフツ運動からアール・ヌーヴォーとアール・デコ、そしてバウハウスに代表されるモダニズム・デザイン、さらに第二次大戦後の展開までの100年あまりのデザインの流れをたどります。その歴史を知ると、現在私たちの身の回りにあるデザインを見る視点が広がり、きっとその新たな魅力に気づくことでしょう。

## 本展のみどころ

### ● デザインの歴史を総合的に紹介する金沢移転後初の展覧会です。

国立工芸館は工芸とデザインを専門的に扱う国内では唯一の美術館です。金沢移転後は、工芸とデザインを両方紹介する展覧会やグラフィック・デザインに特化した展覧会は開催していますが、立体と平面のデザインを総合的にご紹介するのは本展が初めてです。デザイン史を彩る珠玉の作品で、モダン・デザインの成立と展開をたどります。

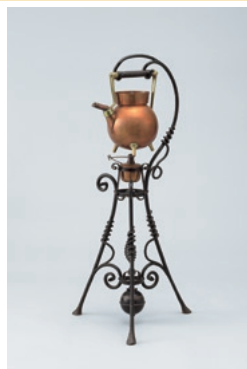
### ● デザインって工芸とどこが違うの？歴史を知ればその本質が見えてきます。

国立工芸館が工芸とともにデザインを対象としてきたのは、それらが密接に関連した営為として発展してきたからです。その違いや境界線を説明するのは簡単なことではありません。本展では工芸からデザインが生まれた歴史的背景や経緯とともに作品を紹介します。その共通点や違いを知れば、それぞれの特徴や魅力が見えてきます。

## 展示構成

### 1章 アーツ&クラフツ運動とアール・ヌーヴォー

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、動植物をモチーフとした流麗な曲線による装飾様式が流行します。それは急速な工業化や都市化により均整を欠いた社会や生活に不安を覚えた人々による、自然がもつ秩序や活力を取り入れたという願いでもありました。生活の変化がもたらした新しいものづくりのアイデアは、やがてモダン・デザインの種となります。



No.3



No.4

### 2章 アール・デコ

曲線を多用した装飾に変わり、1910年代後半からより大胆で幾何学的な装飾が流行します。1925年パリで開催された展覧会にちなみアール・デコと呼ばれるこの様式は、工業的生産に適した形態や装飾であると同時に、自動車や飛行機のもたらず移動の高速化や産業の機械化という「マシン・エイジ」の到来を肯定的にとらえた新しい美意識の反映でもありました。



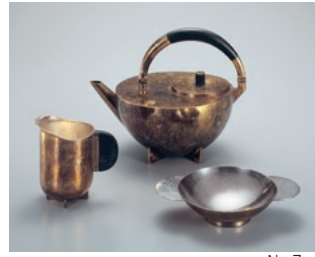
No.5



No.6

### 3章 モダニズム・デザイン

第一次大戦後の1919年ドイツで設立された建築デザイン学校バウハウスでは、芸術と科学技術の統一を掲げ、新しい教育が展開されました。いかに装飾するかを問題としたデザイン黎明期から大きく転換し、生産効率や機能性を追求することで生まれた装飾のないフォルムは時代や地域を超えた普遍性を備え、今日まであらゆるデザインの基礎となっています。



No.7



No.8

### 4章 戦後の展開

第二次大戦後もモダニズム・デザインは主流であり続けますが、一方でその画一化された禁欲的なデザインへの反動も起きました。機能や合理性だけを追求せず遊びやユーモアなどそれまで無駄とされた要素を取り込むことで、豊かなイメージを喚起させるデザインが登場します。無機質でクールなスタイルや装飾的で激しいスタイルなどが共存し、多様な展開を見せています。



No.10



No.11

### 関連イベント

#### 「世界と日本のデザインミュージアム 展望と課題（仮）」

日時：10月24日(土) 午後2時～午後3時30分 (開場 午後1時30分)

講師：暮沢 剛巳氏 (東京工科大学教授)

定員：45人 (要予約・要観覧券※半券可)

会場：国立工芸館 多目的室

主催：兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会

申込方法は当館ホームページをご確認ください。内容や日時は都合により変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

### 記者発表会・内見会

#### 10月8日(木) 午前11時30分～午後1時 (受付開始 午前11時30分)

(記者発表 午前11時50分～午後0時30分)

一般公開に先駆けて報道関係の皆さまのみの発表会および内見会を行います。

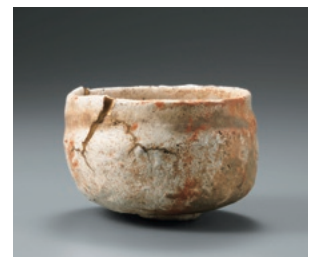
参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでご連絡ください。

### 次回展予告

#### 金継ぎ－KINTSUGI－展 2027年2月26日(金)～6月6日(日)

金継ぎは、やきものなどの割れや欠けを漆でつないで直し金粉を蒔いて装飾する技法です。中世から現代に至るまで続くこの修復技術の根底には、ものを守り伝えることと、不完全さに美しさをみる日本ならではの考えがあります。本展では、金継ぎの歴史とともに新たな美や価値を作品に生み出す「再生」の美学にも注目します。

川喜田半泥子《志野茶碗 赤不動》1949年 国立工芸館蔵  
撮影：エス・アンド・ティ フォト



**国立工芸館**  
National Crafts Museum

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2  
<https://www.momat.go.jp/craft-museum>



アクセス バスにて JR金沢駅兼六園口(東口)より

【北鉄バス】

3番乗り場：乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分

6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分

8番乗り場：乗車、「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分

車にて 北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。

近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。



報道関係の方の  
お問い合わせ先

国立工芸館 広報事務局 (株式会社OHANA内)

Tel:03-6869-7881 Fax:03-6869-7801 E-mail:ncm@ohanapr.co.jp

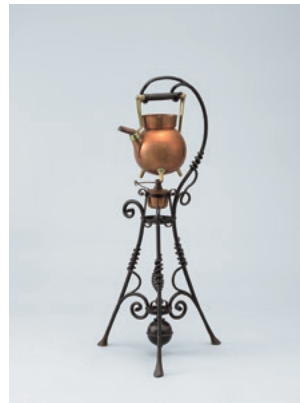
## 広報用画像一覧



No.1  
展覧会チラシ



No.2  
ウィリアム・モリス  
《内装用ファブリック 小鳥》1877-78年  
国立工芸館蔵



No.3  
クリストファー・ドレッサー  
《ケトルとスタンド》1882-85年頃  
国立工芸館蔵  
撮影：エス・アンド・ティ フォト



No.4  
アルフォンス・ミュシャ  
《サラ・ベルナルール》1896年  
国立工芸館蔵 **[前期展示]**



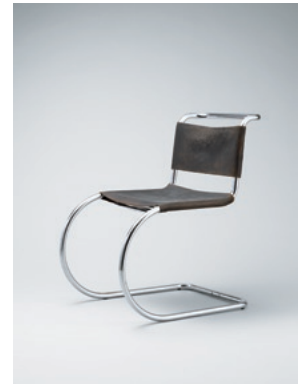
No. 5  
ピエール・シャロー  
《書架机》1930年頃  
国立工芸館蔵



No.6  
作者不詳  
《フローチ》1920-30年代頃  
国立工芸館蔵  
撮影：品野豊



No.7  
マリアンネ・ブランド  
《ティーセット》1925年頃  
国立工芸館蔵  
撮影：アローアートワークス



No.8  
ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ  
《MR 10 椅子》1927年  
国立工芸館蔵  
撮影：エス・アンド・ティ フォト



No.9  
マルセル・ブロイヤー  
《クラブ・チェア B3 (ワシリー)》1927年  
国立工芸館蔵  
撮影：エス・アンド・ティ フォト



No.10  
チャールズ&レイ・イームズ  
《ワイヤーメッシュ・チェア》  
1951-53年  
国立工芸館蔵  
撮影：エス・アンド・ティ フォト



No.11  
エンツォ・マーリ  
《磁器のデザイン C》1973年  
国立工芸館蔵  
撮影：エス・アンド・ティ フォト



No.12  
トム・ディクソン  
《鉄塔の椅子》1994年  
国立工芸館蔵  
撮影：エス・アンド・ティ フォト

\* 上記画像No. 1～12を広報用にご提供いたします。  
ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。  
<https://www.momat.go.jp/craft-museum/reproduction>



\* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券(5組10枚)をご用意しております。  
ご希望の方は画像申請の際に「その他」欄よりお知らせください。